レター

頻繁に反復するいわゆるちんちんの姿勢に起因した 犬の外傷性脱毛

Traumatic Alopecia Associated with Excessively Repeated “Sit up” in a Dog

永田雅彦

ASC どうぶつ皮膚病センター

Masahiko Nagata

Animal Dermatology Center, ASC

8歳齢、避妊雌の雑種犬が、2歳頃よりみられる踵、腋窩、けん部の痒みを主訴に平成15年4月10日当センター受診。上記部位に掻破痕はなく、両恥骨付近に境界明瞭な外傷性脱毛を認めた(Fig. 1)。自験例は“ちんちん”が得意で、飼い主の気を引く行動であるかのごとく能動的かつ頻繁に繰り返すと報告された。痒みは精神的要因による舐性掻破行動と診断され、脱毛斑は強迫観念の関与を否定できないいわゆるちんちんの姿勢に起因した外傷の関与が推測された。飼い主の犬に対する一貫した接し方とコマンド応答報酬フォーマットの指導を行ったところ明らかな改善を認めた(Fig. 2)。

外傷に起因する皮疹は大型犬の肘や胸骨付近などの骨が突出する加圧部に好発する¹⁾。その治療として通常パッドや軟性床材の使用を指導するが、自験例では犬の精神的側面に注目した行動の修正が有用であった。

引用文献

- 1) Scott, D.W., Miller, W.H. and Griffin, C.E. 2001. pp. 1101–1102. *In*: Small Animal Dermatology 6th ed., W.B.Saunders, Philadelphia.

Fig. 1. Clinical features. Note demarcated bilateral alopecia in the pubic areas.

Fig. 2. Clinical features. Skin lesions were improved after cessation of sit-up.